



ろう者と聴者の人形劇団 ラオス カオニャオメディアパ 日本

オンラインでワークショップ&発表会

9月6日から18日にかけて、ラオスの人形劇団「カオニャオ」との共同ワークショップを行いました。カオニャオはデフパペと同じくろう者と聴者による人形劇団。2年前から互いの拠点を行き来しつつ3回にわたるワークショップを行ってきました。4回目となる今回は感染症の拡大により二度の延期を経て、初のオンラインでの実施となりました。

モノに命を

9月6日ひとみ座第一スタジオ。壁際のスクリーンにラオス側スタジオのライブ映像が映り、共同ワークショップが始まりました。

カオニャオからの参加者はろう者と聴者が3人ずつ。ラオスでもコロナの影響は大きく、表現活動は実に一年半ぶりとのこと。今回のワークショップへの情熱もひとしおです。

ラオス式のウォームアップに続いて始まったのは、両国のメンバーが持ち寄った台所用品に「命を入れる」取り組み。じっくりとモノを観察し、どのように生かすか各自がイメージして遣います。

共に聴者とろう者で活動していながら、異なる文化を背景にもつ両劇団。互いの表現から刺激を受けつつ、2日目以降はより大きなモノを遣ってみたい、複数人でモノを組み合わせてみたいと発展していききました。



発表会

最終日は川崎市の国際交流センターにて成果発表会を行いました。ここでもカオニャオはオンライン参加。取組みの説明に続き、Zoomの2画面を活用した映像作品「綱引き」を上映。それが終わると、「命の始まり」をテーマに創作した小品を上演しました。

★当日ご覧いただけなかった方のため、発表会の模様を撮影した動画を後日配信します。配信方法等については追って劇団HPなどでご案内します。
(文：池内)



ワークショップを終えて

カオニャオ主宰 ラタナコーン・インシンシエンマイ



今回のワークショップは、COVID19(コロナ)の影響のため、ワークショップ自体をリモートでおこなうという試みでした。それはメンバー、そして私にとっても初めての挑戦でしたが、日本とラオスのメンバーの協力によってなんとか成遂げることができました。

今まで継続してきたろうの役者と聴こえる役者が協力し合ってワークショップをするプロジェクトは、関係性を作っていくということにおいても双方に刺激となっています。将来的にも日本・ラオスのろうのメンバーと聴こえるメンバーによる協働が続くことを願っています。

(日本語訳：あさめまぢずこ)

近況、あれやこれや

公演

◆9月23日 千葉県佐倉市にて「河の童」上演。300人以上のお客さまにご来場いただきました。

↓(主催者さんから)参照

◆10月1日 富山聴覚総合支援学校の90周年式典にて、「一寸法師とおたのしみ交流会」をオンラインで上演しました。

学校ワークショップ

◆青ヶ島小中学校(東京都)、高森小学校(山口県)、奈良県立ろう学校にてOΔOのワークショップを実施しました。

↓(青ヶ島について)3か月に一度のこんには「参照」

◆10月から「BOXES」巡回公演の事前ワークショップが始まりました。今年は何東の学校にお邪魔しています。

◆10月25日 国立市立第八小学校にて音のワークショップを実施しました。

その他

◆【新作人形劇・百物語】9月20日 創作のための出演者ワークショップを行い、影絵による表現の可能性を追求しました。

◆【高齢ろう者×アートプロジェクト】高齢ろう者の就労支援施設「桃」(愛知県)にて利用者の方々とワークショップを実施しました。

また、岡山県岡山市のサロン活動「ももハウス」にオンラインで訪問し、ワークショップを行いました。

↓(日々これ制作)参照

◆榎本トオルが東京2020パラリンピック競技大会閉会式に出演しました。

◆葛飾ろう学校(東京都)にて榎本トオルが演劇指導を行いました。

新メンバーがデフパベに加わりました!

入団の「あいさつ」

足立沙樹

この秋より新たにメンバーに加わりました、足立沙樹(あだちさき)です。

「そのうちなんとかなるだろう」

——人生の達人(と勝手に呼んでいる)、内田樹センセイの「著書のタイトルです。わたしのモットーでもあります。

去る2020年の春、生き甲斐になりつつあった仕事を突然

失い、無職になったとほぼ同時にCOVID19の大流行がやってくる」と云う、なかなか珍しい経験をしました。あの緊急事態

宣言下に就職活動をせざるを得ない。なんとも不条理極まり

ない境遇は、自身の生き方や働き方に対する

認識を大きく変えました。

そんな、ろくでもない

さ全開な身の上に、かのセンセイのお言葉の

数々がグサツと刺さった訳ですね。おかげさ

まで、「ほんとうになり

たいもの」になる為の

「心と直感に従う勇氣」

をすっかり取り戻した

わたしは、心惹かれる

ままに、直ぐさまひと

み座養成所に応募しま

した。そして今、縁あつ

てデフパベで愉しく活

動しています。

お恥ずかしながら、

これまで専ら美術ばか



3ヶ月に一度のこんには

やなせけい

りにうつつを抜かしてきてしまった為に、役者も手話もほとんど経験がありません。これから、皆さまからたくさんのごことを教わりながら、地道に刻苦勉強していきたいと思ひます。

そのうちなんとかなるだろう!と、どうか気長に見守ってくださいますように...

青ヶ島に行ってきました

久しぶりに旅?(一泊)で、濃い2日間をすごしました。

羽田から八丈島まで飛行機で50分、さらに東京アイランド

シャトル(ヘリコプター)で南へ20分(フェリーの場合2時間30分)

で行ける断崖絶壁の小さな島です。人口は170人ほど、日本

で一番小さい村といわれています。二重式カルデラの島で、内

輪山には椿の木がきれいに並べて植えてあって緑のパパロアのよ

うです。

で、青ヶ島村立青ヶ島小中学校でワークショップをしてきました。子どもたちは全部で10人。先生方もみんな元気に参加してくださって、和やかに楽しいワークショップになりました。

オンラインにはそれなりの良さがあると思ひますが、私にはやっぱり人を目の前にして行う公演やワークショップが合ってるなあと改めて強く感じています。企画をしてくださった皆さん、参加してくれた子どもたち、先生方に感謝です。

初めてのヘリコプター、行きは緊張、帰りはルンルン。お天気にも恵まれ快適な空の旅でした。

ワークショップ終了後、島を案内していただきました。が、この島でしか飲めない焼酎や、ひんぎやの塩、島寿司などなど食べ物だけでも一泊などではとても語れません。ので、または是非行きたい場所です

主催者さんから

「子どものあしたプロジェクト 谷垣鈴代さん

こんにちは。9月23日 佐倉公演でお世話になりました「子どものあしたプロジェクト」の谷垣です。

昨年の10月にデフ・パペットシアターひとみの制作の池内さんが佐倉に「河の童」の説明に来られてから1年経ちました。先月23日に私たちはこのコロナ禍の中 公演をできたことはなんと書いてもうれしかったです。

さて何がよかったのかなと思っておくすといろいろありますが私たち子どものあしたプロジェクトのメンバーが前向きだったことです。でも感染拡大の6、7、8月。東京も千葉も佐倉も緊急事態宣言が出た時には、やはり挫けることもありました。そんな時にデフ・パペットシアター・ひとみの池内さんが丁寧に対応してくれて、劇団と私たちをつなぎとめてくれました。最終実現な方でした。ありがとうございました。

あとデフ(耳の聞こえない/ろう者)との共生。手話サークル「希望(のぞみ)」さんとの出会いです。当日舞台挨拶の手話通訳、会場のお手伝い、チケットの配券等お願いしました。その中でろう者の方との出会い、公演後感想を聞きました。「いつも耳がきこえないので人に世話になるばかりでしたが、スタッフとして協力できてよかった。劇団スタッフの手話の挨拶がよかった。聞こえない人、聞こえる人 関係なく楽しめたと思う」とFAXでお返事いただきました。

公演当日 我々スタッフは当日のお天気のように晴れやかな気持ちで劇団のみなさんをお迎えしました。そして終演後 会場もいつもと違い半分の人数(感染予防対策のため)でしたが会場から出てこられる人々の満足した表情に本当に公演ができてよかったと思いました。感謝いたします。

アンケートの中から

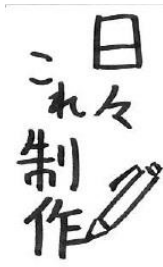
*人形の動きで内容をつかむことができました。悲しいお話でした(小学生)

*初めてデフ・パペットシアターさんの作品を鑑賞しました。物語が進んでいくと共にその世界観にグッと引き込まれ



「子どものあしたプロジェクト」による手作り看板

ていきました。終盤の強いメッセージに向けて、一つひとつ丁寧に訴えかけ、私たち一人一人に考えさせる余白を残してくれているように感じました。素晴らしい作品をありがとうございました。家族で観に行きましたが、観る年代によっても受け取るメッセージに変化がでるように感じ、また時間をおいてから観てみたい作品です。



池内剛志

「高齢ろう者×アートプロジェクト」という一連の企画を始動しました。初年度である今年、「高齢のろう者との対話やワークショップを通じて「昔の遊びの思い出」を収集し、それをもとにデフ・パペのメンバーがパフォーマンスを創作します。

ワークショップの中では、たとえば絵に描いたり、場面を演じたりしながら昔のことを思い出していきます。ひとの記憶は不思議なものだとつくづく思います。

たとえば「私はあまり覚えていないな」という方でも、なんとなく描きはじめた絵をきっかけに次から次へと辛くなる式に思い出が湧いてくるような感じです。思い出が辛ならば、クッションはスナップです。一見何も無いようでも、掘ってみると何かしら出てくる。人間はだれしも辛煙です。

絵に描いた場面を演じるワークショップも面白いです。幼少



桃@愛知県春日井市での一幕。思い出の場面を演じます。

期の記憶ほど根強く残る、というのは私の体感からしても確かにそんな気がしますが、それにしても鮮やかに再現されていく参加者の皆さんの「あの日あの場所」を観ていると、まるで自分もその瞬間に居合わせている気になります。緑の力エゾでも真っ赤な色素を隠し持っているように、普段は表に出てこなかったとしても、「あの日あの場所」は常にその方の「いま」と同時に存在するのだなあと感動してしまいます。

まだまだ始まったばかりの企画ですが、この先にどんな出会いがあるのか楽しみです。

おしらせ掲示板

ご支援のお願い

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、デフ・パペットシアター・ひとみの昨年度以降の上演の多くが延期または中止となり、また、依然として先行きの見えない状況が続いています。

今後の継続的な劇団活動のため、みなさまのご支援を賜りたく存じます。ご支援方法についての詳細は、デフ・パペットの企画運営を行う（公財）現代人形劇センターのホームページをご参照ください。

今後の公演・ワークショップ情報

2022年3月18日(金)～21日(月祝)
KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

新作人形劇 **百物語**

構成・演出:白神ももこ(モモンガ・コンプレックス)

原作 杉浦日向子『百物語』(新潮文庫刊)

高齢ろう者×アートプロジェクト 2021 成果発表会

デフパペメンバーがご高齢のろう者から
伺ったお話をもとにパフォーマンスを発表します。

12月19日(土)
大山街道ふるさと館(神奈川県川崎市)
2F イベントホール

※新型コロナウイルスの感染拡大状況などに応じて、予定が変更になる場合がございます。最新の情報はデフ・パペのホームページよりご確認ください。

おもな公演・ワークショップ

「河の童」

・11月27日 草加市(埼玉県)

「一寸法師」

・11月21日 川の博物館(埼玉県寄居町)

・12月20日 稲城市立若葉台小学校(東京)★

・2月21日 国立市立国立第八小学校(東京)★

「稲むらの火」

・11月6日 和歌山市(和歌山県 国民文化祭)

「はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪」

・11月10日 東村山市立南台小(東京)★

・11月12日 茨城大学教育学部附属特別支援学校★

・11月29日 富津市立環小(千葉)★

・11月30日 千葉市立院内小★

・12月1日 千葉市立花見川中★

・12月6日 下妻市立豊加美小(茨城)★

・12月8日 坂東市立逆井山小(茨城)★

・12月9日 常陸太田市立里見小/中学校(茨城)★

・12月12日 袖ヶ浦市(千葉県)

・12月14日 青梅市立友田小(東京)★

・12月16日 調布市立飛田給小(東京)★

・1月22日 つくば市(茨城県)

★は学校公演です。

メール配信のご案内

メールでのデフニュース・その他公演情報の受信をご希望の方は、お手数ですが

- ①アドレス deaf_hp@puppet.or.jp までメール
- ②ホームページのお問い合わせフォーム

のいずれかの方法にて

- ・氏名
- ・ご住所
- ・デフニュースメール配信希望の旨

を本文にご記載のうえ、お知らせください。

◆役者募集中!◆

【仕事の概要】

全国での人形劇の公演・ワークショップなど

【条件等】

- ・ろう者、聴者は問いません
- ・手話でお話をするのが好きな方
もしくは手話に興味のある方
- ・年齢・入団日は応相談 詳しくはデフ・パペのHPにて!



★デフパペ友の会★

デフ・パペットシアター・ひとみでは
【友の会】の会員を募集しています。

- ・年会費
個人会員 1500円
ペア会員 2500円

・特典

デフパペ公演割引
グッズお買いものチケット
デフパペニュースお届け
オリジナルお誕生日カード